

【諮問事項】

令和 4 年度納付金の算定方法について

《目次》

諮問書（令和 3 年 1 0 月 2 1 日）

○参考資料

- ・ 国民健康保険事業費納付金算定の流れ
- ・ 国民健康保険事業費納付金の算定方法
- ・ 激変緩和の計算の流れ

（令和 3 年 1 0 月 2 5 日開催 令和 3 年度第 1 回鳥取県国民健康保険運営協議会資料）

第202100177949号
令和3年10月21日

鳥取県国民健康保険運営協議会長 様

鳥取県福祉保健部長 中西 眞治
(公 印 省 略)

諮 問 書

国民健康保険法（昭和33年法律第192号。以下「法」という。）第11条第1項の規定に基づき、法第75条の7第1項の規定による令和4年度国民健康保険事業費納付金の徴収に関することについて、別紙「令和4年度国民健康保険事業費納付金の算定方法について」により決定したいので、諮問します。

令和4年度国民健康保険事業費納付金の算定方法について

国民健康保険法（昭和33年法律第192号）第75条の7第1項の規定による令和4年度国民健康保険事業費納付金の算定については、国民健康保険の国庫負担金等の算定に関する政令（昭和34年政令第41号。以下「算定政令」という。）並びに鳥取県国民健康保険条例（平成29年鳥取県条例第46号。以下「条例」という。）及び第2期鳥取県国民健康保険運営方針（令和3年4月鳥取県策定）に基づき算定することとしているが、条例第8条の規定による知事が定める数を次のとおりとする。

	令和4年度 知事が定める数 (案)	参考（第2期運営方針）
医療費指数反映係数（ α ） (条例第9条第1項関係)	1	(運営方針) ・医療費指数反映係数 α の値は、県内市町村の医療費水準の差異の状況や保険料(税)の統一化の状況を踏まえ、市町村と協議の上、毎年度告示により示すこと。 ・現状として県内市町村の医療費水準に差があることと医療費適正化の面での必要性により、納付金の算定に医療費水準を反映させること。
(参考) 医療費指数反映係数：各市町村の医療費水準の差をどの程度納付金の配分に反映させるかを調整する係数 (0以上1以下の範囲内) $\alpha = 1$ の場合 医療費水準の差を納付金配分に全て反映 $\alpha = 0$ の場合 全く反映させない		
所得係数（ β ） (条例第11条、第15条、第19条関係)	国が示す 係数とする。	(運営方針) 市町村との協議を踏まえ、国が示す係数を使用することとし、毎年告示により示すこと。
(参考) 所得係数：所得の水準をどの程度納付金の配分に反映させるかを調整する係数。 応能割の配分：応益割の配分 = $\beta : 1$ となる。 全国の平均的な所得水準の都道府県の場合は、 $\beta = 1$ となり、 応能での配分納付金：応益での配分納付金 = 50:50となる。		
均等割指数 (条例第14条、第18条、第22条関係)	0.7	(運営方針) 均等割：平等割 = 70:30とすること。
(参考) 均等割指数： 応益割（均等割及び平等割）の賦課総額に占める均等割の割合		

※ 「参考（運営方針）」欄は、第2期国民健康保険運営方針の規定を記載している。

なお、記載内容については、令和3年10月1日開催の県・市町村国民健康保険連携会議で合意済。

国民健康保険事業費納付金算定の流れ

原則として、納付金の額は、県全体の保険給付費の見込みを立て、市町村ごとの医療費水準や所得水準を考慮して配分額を決定する。

※ 次の①～⑥は納付金の算定イメージに対応。

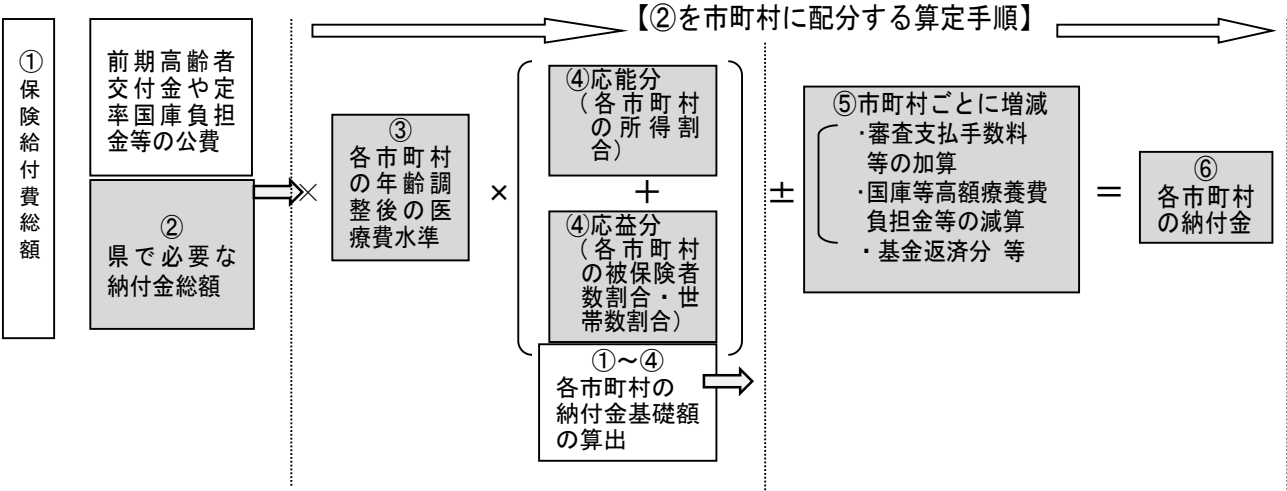
- ① 県全体の保険給付費総額を推計 (過去3年間の伸び率を勘案して推計)
- ② ①から国庫負担金等の公費を除き、県全体に必要な納付金総額を算出
- ③ ②の納付金総額に各市町村の年齢調整後の医療費水準を勘案
- ④ ③に各市町村の県内の応能 (所得割合)、応益 (被保険者数割合や世帯割合) を反映
(本県の場合は3方式を採用するが、4方式の場合、上記④の応能分に資産割合を追加)

$$\begin{aligned}
 \text{各市町村の納付金基礎額 (①～④)} &= \text{県に必要な納付金総額} \\
 &\times [1 + \alpha \times (\text{年齢調整後の医療費指数} - 1)] \\
 &\times [\beta \times (\text{応能(所得)の割合}) + (\text{応益(被保険者・世帯)の割合})] / (1 + \beta) \times \gamma
 \end{aligned}$$

- ※ α (医療費指数反映係数) は、医療費指数をどの程度反映させるか調整する係数 ($0 \leq \alpha \leq 1$)
 $\alpha = 1$ の場合、医療費指数を納付金の配分にすべて反映させる。
 $\alpha = 0$ の場合、医療費指数を納付金の配分にまったく反映させない。
- ※ β (所得係数) は、所得の割合をどの程度納付金の配分に反映させるか調整する係数
 全国の平均的な所得水準の都道府県の場合
 $\Rightarrow \beta = 1$
 \Rightarrow 応益での配分納付金 : 応能での配分納付金 = 50 : 50
- ※ γ (調整係数) は、各市町村の納付金基礎額の総額を、県の総額に合わせるための係数

- ⑤ 各市町村の納付金基礎額に各市町村固有の経費となる審査支払手数料等の加算、高額医療費負担金の減算等の増減を勘案
- ⑥ 各市町村の納付金を決定

＜納付金の算定イメージ＞



国民健康保険事業費納付金の算定方法

- 本県の納付金の算定は、国のガイドラインに示された算定方式を基本としている。
- 原則として、納付金の額は県全体の保険給付費の見込みを立て、市町村ごとの医療費水準や所得水準を考慮して配分額を決定するが、算定に必要な医療費係数の取扱い等、市町村と合意を得て算定している。

また、納付金は次の3区分（医療分、後期高齢者支援分、介護納付金分）の算定の合計額となる。

さらに、本書では、仮想市町村を設定（仮定の係数等の設定）し、納付金算定の流れを具体的に例示しているため、金額・係数は参考数値である。

【医療分】

算定のイメージ	算定に関する説明
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 5px;">① 保険給付費総額</div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; width: 40%;">前期高齢交付金や定率国庫負担金等公費</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; width: 55%;">② 県で必要な納付金算定基礎額</div> </div> </div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <div style="text-align: center;">×</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 5px 0;">③各市町村の年齢調整後の医療費水準</div> <div style="text-align: center;">×</div> <div style="display: flex; justify-content: center; align-items: center; gap: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">④応能分 (各市町村の所得割合)</div> <div style="text-align: center;">+</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">④応益分 (各市町村の被保険者数割合・世帯数割合)</div> </div> <div style="text-align: center;">×</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 5px 0;">⑤調整係数</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 5px 0;">⑥各市町村の納付金基礎額 (①~⑤)</div> <div style="text-align: center;">±</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 5px 0;">⑦市町村ごとに増減 ・審査支払手数料等の加算 ・国庫等高額療養費負担金等の減算 ・激変緩和措置分⑧等</div> <div style="text-align: center;">=</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 5px 0;">⑨各市町村の納付金</div> </div>	<p>※ ①~⑨は左の納付金算定のイメージ図に対応。</p> <p>① 県全体の保険給付費を推計 (R2 をベースとし、70 歳以上の高齢者の医療費等の特殊事情を勘案して推計) 約 420 億円</p> <p>② ①から国庫負担金等の公費 約 300 億円 を除く 県で必要な納付金算定基礎額 約 120 億円 を算出</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>仮定の市町村 (算出例を提示する仮定の団体各種係数等)</p> <p>医療費指数 : 1.05 所得割合 : 15% 被保険者割合 : 10% 世帯割合 : 12%</p> </div> <p>③ ②の納付金総額に各市町村の年齢調整後の医療費水準を勘案 [1 + α × (年齢調整後の医療費指数 - 1)]</p> <p style="text-align: center;">※ α (医療費指数反映係数) = 1 (→ 医療費指数を納付金の配分にあわせて反映)</p> <p>④ ③に各市町村の県内の応能 (所得割合 ※)、応益 (被保険者数割合や世帯割合) を反映。 (※ 本県の納付金算定では3方式を採用しているため、所得割合勘案) [β × (応能(所得)の割合) + (応益(被保険者・世帯)の割合)] / (1 + β)</p> <p style="text-align: center;">※ β (所得係数) = 県平均 0.80 被保者:世帯 = 0.7 : 0.3</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>(仮想市町村の計算例)</p> <p>120 億 × 1.05 × (0.8 × 0.15 + 0.7 × 0.10 + 0.3 × 0.12) / 1.8 = 15.8 億円</p> <p style="text-align: center;">※ 1.8 = 1 + 0.8 (所得係数)</p> </div> <p>⑤ 各市町村の納付金基礎額の総額を、県の総額に調整 (仮想市町村の計算例) ※ R4 調整係数:0.97 (仮数値) 15.8 億円 × 0.97 = 15.3 億円</p> <p>⑥ 市町村ごとの納付金基礎額</p> <p>⑦ ⑥の納付金基礎額に各市町村固有の経費となる審査支払手数料等の加算、高額医療費負担金の減算等の増減を勘案 (仮想市町村では 0.5 億円増)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>⑧【対象市町村の激変緩和の算定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保険料で集めるべき一人当たり保険料(※)を算出し、H29 の額と比較する。 ・比較結果で 9.0%以上 (年 1.8%×5 年分) 超過する市町村に激変緩和を実施。 ・激変緩和に投入する額は、市町村と合意済み。 <p style="text-align: center;">激変緩和投入額 = 約 2.4 億円 (仮数値)</p> <p style="text-align: center;">(仮想市町村では医療分の激変緩和額は 0.16 億円)</p> </div> <p>⑨ 各市町村の納付金を決定 医療分 : 約 111 億円 (仮想市町村では医療分 15.8 億円)</p>

【後期高齢者支援金分】

算定のイメージ	算定に関する説明
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">① 後期高齢者支援金</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);"> 後期高齢者支援金や国庫負担金等の公費 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> ② 県で必要な納付金算定基礎額 </div> </div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> </div> <hr/> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center; margin-bottom: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg); margin-right: 10px;"> ②を各市町村に配分する算定基準 </div> <div style="text-align: center; margin-right: 10px;">×</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ③応能分 (各市町村の所得割合) </div> <div style="text-align: center; margin-right: 10px;">+</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ③応益分 (各市町村の被保険者数割合・世帯数割合) </div> <div style="text-align: center; margin-right: 10px;">)</div> </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;">×</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> ④調整係数 </div> <hr/> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ⑤各市町村の納付金基礎額 (①~④) </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;">-</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ⑥市町村ごとに増減 ・精算額 ・激変緩和措置分 </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;">=</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> ⑦各市町村の納付金 </div>	<p>納付金の額は、県全体の後期高齢者支援金等の見込みを立て、交付を受けることが見込まれる公費等の推計も併せて行う。</p> <p>※ ①~⑥は左の納付金算定のイメージ図に対応。</p> <p>① 県全体の後期高齢者支援金等を推計 約 70 億円</p> <p>② ①から国庫負担金等の公費 約 33 億円 を除く 県で必要な納付金算定基礎額 約 37 億円 を算出</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 仮想の市町村 (算出例を提示する仮想の団体各種係数等) 所得割合: 15% 被保険者割合: 10% 世帯割合: 12% </div> <p>③ ②に各市町村の県内の応能 (所得割合 ※)、応益 (被保険者数割合や世帯割合) を反映。</p> <p>(※本県の納付金の算定では3方式を採用しているため、所得割合勘案)</p> $[\beta \times (\text{応能(所得)の割合}) + (\text{応益(被保険者・世帯)の割合})] / (1 + \beta)$ <p>※ β (所得係数) = 県平均 0.80</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> (仮想市町村の計算例) $37 \text{ 億円} \times (0.8 \times 0.15 + 0.7 \times 0.10 + 0.3 \times 0.12) / 1.8 \div 4.6 \text{ 億円}$ ※ $1.8 = 1 + 0.8$ (所得係数) </div> <p>④ 各市町村の納付金基礎額の総額を、県の総額に調整</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> (仮想市町村の計算例) ※ R4 調整係数: 1 $4.6 \text{ 億円} \times 1 \div 4.6 \text{ 億円}$ </div> <p>⑤ 市町村ごとの納付金基礎額</p> <p>⑥ ⑤の納付金基礎額に対象市町村の激変緩和等を勘案</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> (仮想市町村では 0.8 億円減額) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">【対象市町村の激変緩和の算定】</p> <p style="text-align: center;">激変緩和投入額 = 約 2.0 億円</p> <p style="text-align: center;">(仮想市町村では上記減額のうち激変緩和 0.26 億円)</p> </div> <p>⑦ 各市町村の納付金を決定 後期高齢者支援分: 約 32 億円 (仮想市町村では支援分 3.8 億円)</p>

【介護納付金分】

算定のイメージ	算定に関する説明		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">① 介護納付金</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 2px;">介護納付金負担率 国庫負担金等公費</td> <td style="width: 50%; padding: 2px;">② 県で必要な納付金算定基礎額</td> </tr> </table> </div> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">↓</p>	介護納付金負担率 国庫負担金等公費	② 県で必要な納付金算定基礎額	<p>納付金の額は、県全体の介護納付金等の見込みを立て、交付を受けることが見込まれる公費等の推計も併せて行う。</p> <p>※ ①～⑥は左の納付金算定のイメージ図に対応。</p> <p>① 県全体の介護納付金を推計 約 24 億円</p> <p>② ①から国庫負担金等の公費 約 11 億円 を除く 県で必要な納付金算定基礎額 約 13 億円 を算出</p>
介護納付金負担率 国庫負担金等公費	② 県で必要な納付金算定基礎額		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">③ 応能分 (各市町村の所得割合)</p> <p style="text-align: center;">+</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 2px auto; width: 80%;"> <p style="text-align: center;">③ 応益分 (各市町村の被保険者数割合・世帯数割合)</p> </div> <p style="text-align: center;">×</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 2px auto; width: 80%;"> <p style="text-align: center;">④ 調整係数</p> </div> </div> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">↓</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>仮想の市町村（算出例を提示する仮想の団体各種係数等）</p> <p>所得割合： 15% 被保険者割合： 10% 世帯割合： 12%</p> </div> <p>③ ②に各市町村の県内の<u>応能（所得割合（※））</u>、<u>応益（被保険者数割合や世帯割合）</u>を反映。</p> <p style="text-align: center;">（※ 本県の算定は3方式のため、所得割合のみ勘案）</p> $[\beta \times (\text{応能(所得)の割合}) + (\text{応益(被保険者・世帯)の割合})] / (1 + \beta)$ <p style="text-align: center;">※ β（所得係数） = 県平均 0.78</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>（仮想市町村の計算例）</p> $13 \text{ 億円} \times (0.78 \times 0.15 + 0.7 \times 0.10 + 0.3 \times 0.12) / 1.78 \div 1.6 \text{ 億円}$ <p style="text-align: center;">※ $1.78 = 1 + 0.78$（所得係数）</p> </div> <p>④ 各市町村の納付金基礎額の総額を、県の総額に調整 （仮想市町村の計算例） ※ R4 調整係数： 1</p> $1.6 \text{ 億円} \times 1 \div 1.6 \text{ 億円}$		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">⑤ 各市町村の納付金基礎額（①～④）</p> <p style="text-align: center;">-</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 2px auto; width: 80%;"> <p style="text-align: center;">⑥ 市町村ごとに増減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精算額 ・激変緩和措置分 </div> <p style="text-align: center;">=</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 2px auto; width: 80%;"> <p style="text-align: center;">各市町村⑦の納付金</p> </div> </div> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">↓</p>	<p>⑤ 市町村ごとの納付金基礎額</p> <p>⑥ ⑤の納付金基礎額に対象市町村の激変緩和等を勘案 （仮想市町村では 0.6 億円減額）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">【対象市町村の激変緩和の算定】</p> <p style="text-align: center;">激変緩和投入額 = 約 0.9 億円</p> <p style="text-align: center;">（仮想市町村では上記減額のうち激変緩和 0.73 億円）</p> </div> <p>⑦ 各市町村の納付金を決定 介護納付金分：約 10 億円 （仮想市町村では支援分 1.0 億円）</p>		

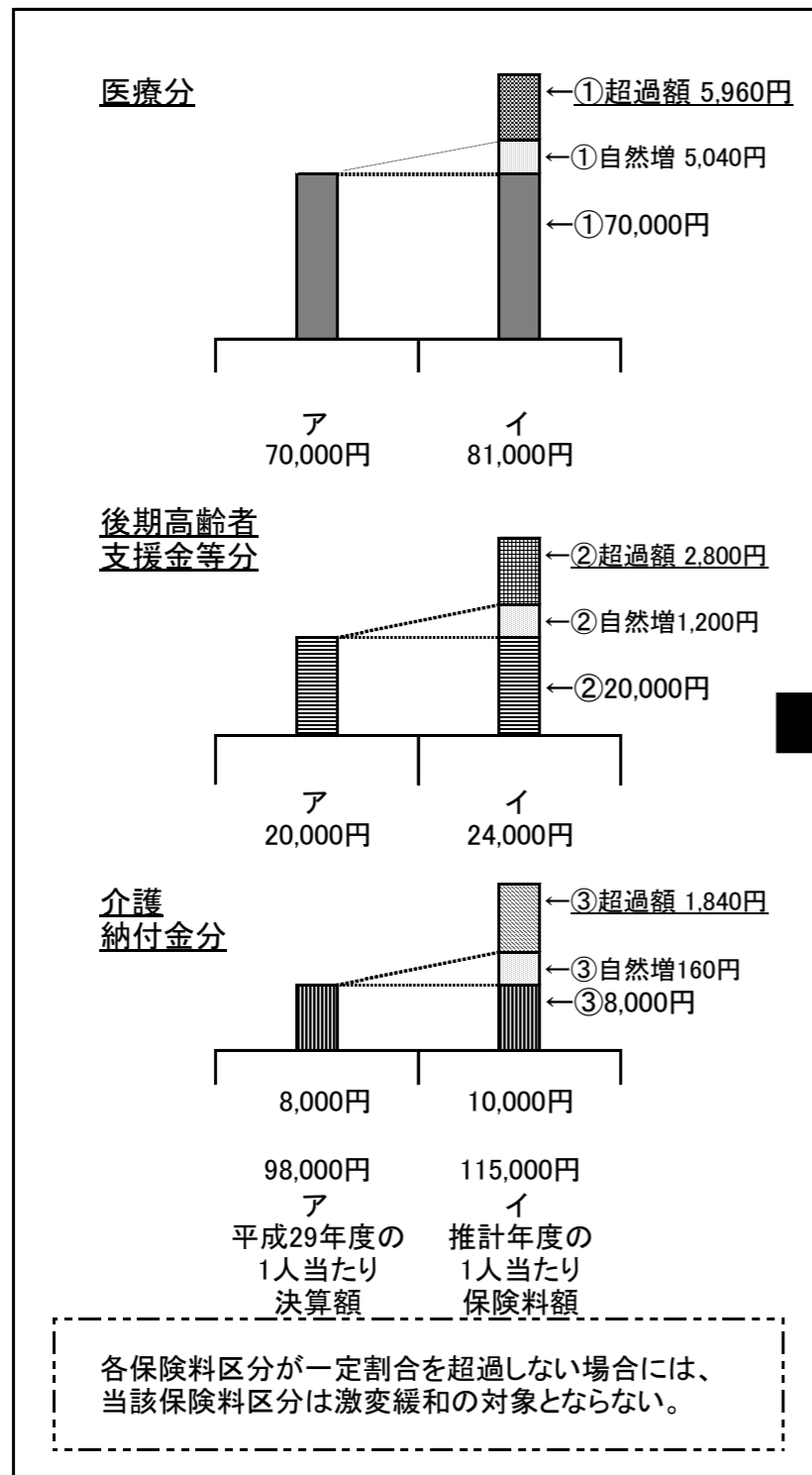
激変緩和の計算の流れ

- A: 医療分、後期支援分、介護納付分の各区分ごとにH29決算額とR4算定を比較(丈比べ)
- B: 各区分を合算し、合算額が一定割合(自然増は全体で年1.8%(医療1.8%、支援1.5%、介護0.5%) 5年でそれぞれ9.0%、7.5%、2.5%)を超過する部分を算定。この超過部分を激変緩和の対象とする。(ただし、全体で年1.5%(医療1.5%、支援1.5%、介護0.5%)で算定しても激変緩和財源に不足を生じなければ年1.5%とする。)
- C: Bの超過額を各区分ごとに比例按分し、各区分ごとに激変緩和措置対象額を算定

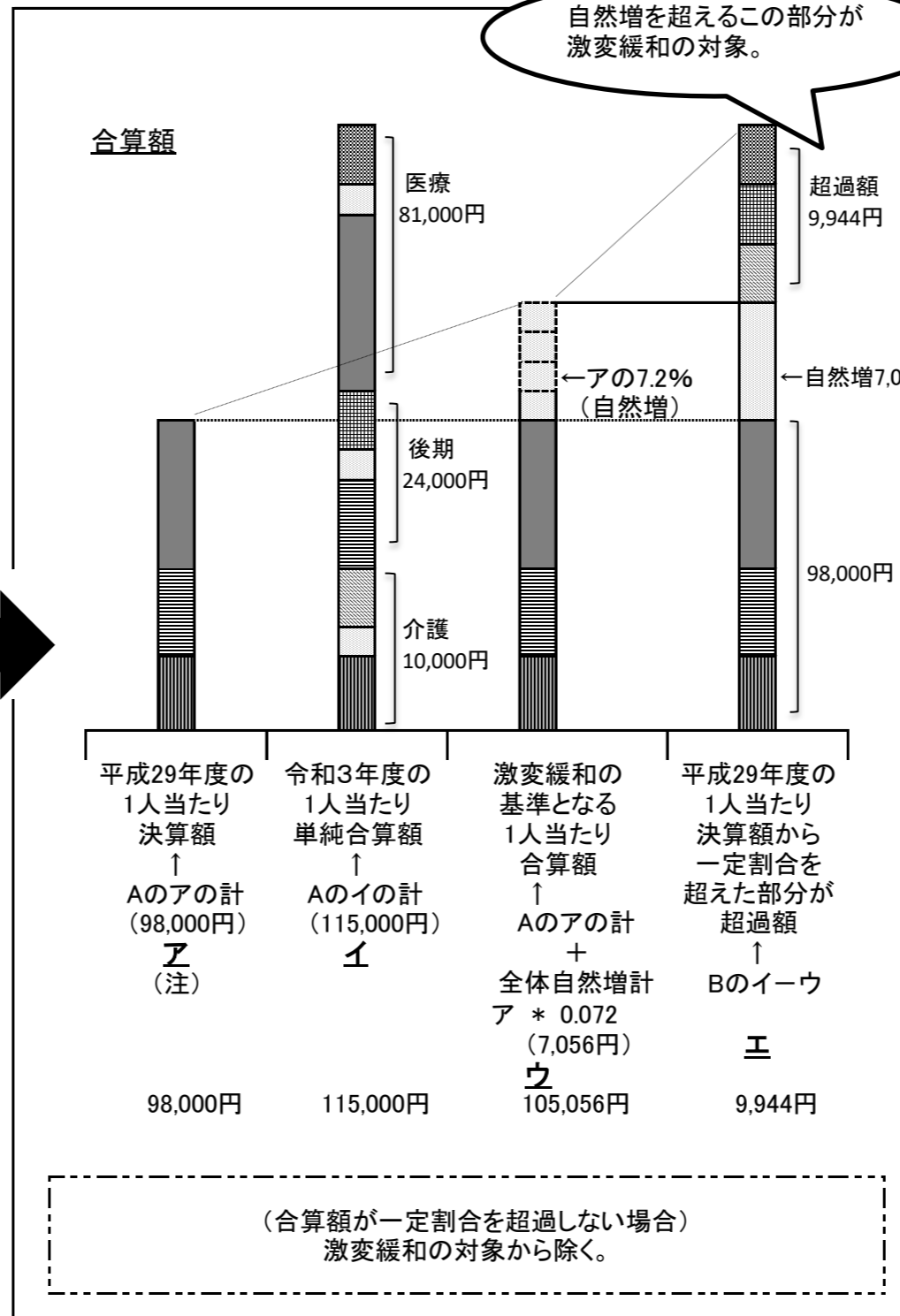
【基本的な考え方】

- 制度改革に関わらず医療費の増減はあり、本県の場合は過去の傾向から、年1.8%増(対H29比9.0%)まで(激変緩和財源に不足を生じなければ年1.5%(対H29比較7.5%まで)を自然増と見込む。
- この一定割合(自然増)を超える部分は、制度改革後の影響で伸びたものという考え方で、ここに激変緩和措置を講じるもの。
- 各区分ごとに算出するため、全体で9.0%(自然増を年1.5%に設定する場合は7.5%)を超過しなければ対象としない。

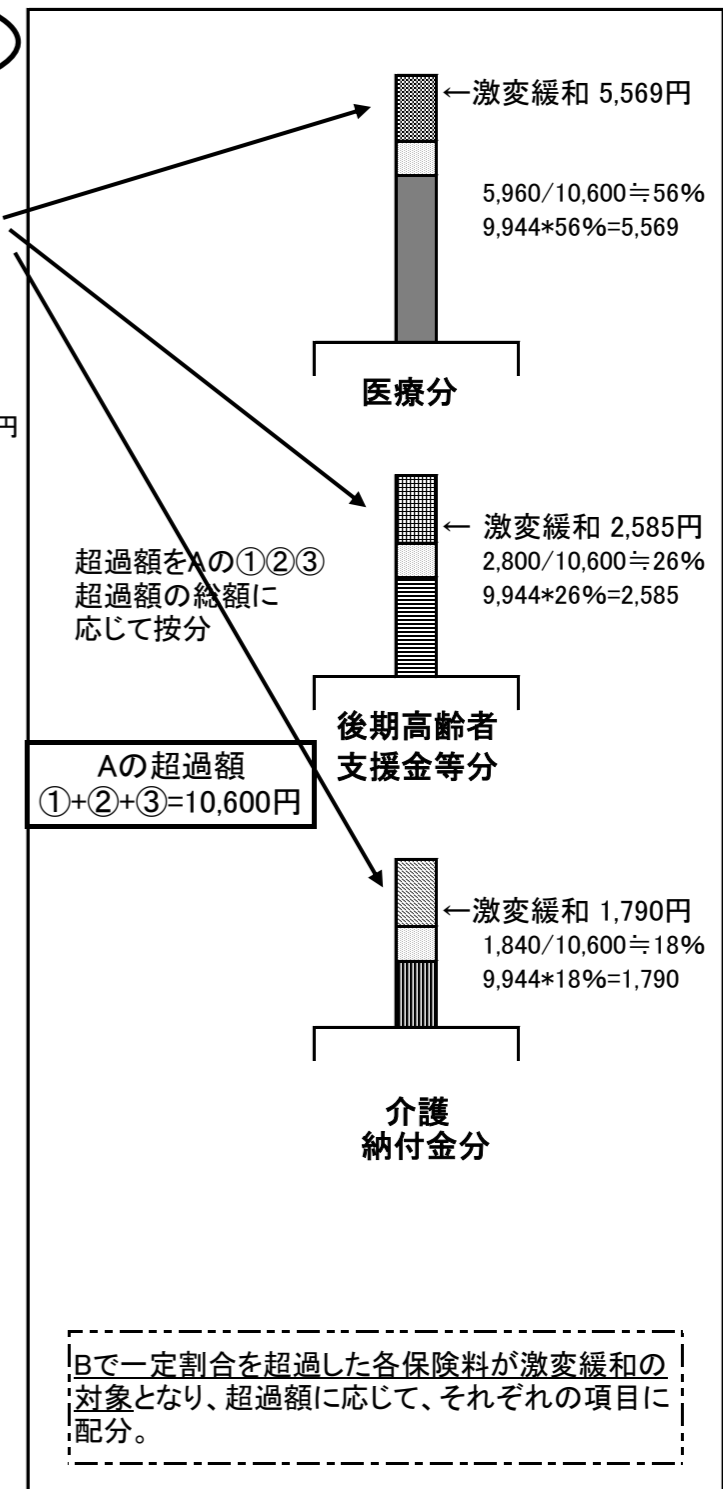
A: 各区分で1人当たり額をH29と比較(丈比べ)



B: 各区分の合算額から合算額で激変緩和の対象額を算出



C: Bの全体超過額を各区分のAで比例按分



※ 一定割合は、自然増(1.8%/年) × 5年分=9.0%と設定。(ただし、1.5%/年で算定しても激変緩和財源に不足を生じなければ年1.5%とする。)

29年度1人当たり保険料を合計するときには、医療分+後期高齢者支援金等分+(介護分保険料総額 × (R4年度介護被保険者数 ÷ R4年度一般被保険者数 ÷ 29年度介護被保険者数))の計算をする。

R4年度1人当たり保険料を合計するときには、保険料総額(医療分+後期高齢者支援金等分+介護分) ÷ R4年度一般被保険者数の計算をする。

合算額ウ 激変緩和基準額を計算するときには、合算額ア × 1.090(自然増を年1.5%とする場合はア × 1.075)の計算をする。